

## ダニエル書10章12-14節 「血肉に拠らない戦い」

### 1A 戦いの書なる聖書

1B 神の秩序に対する反逆

2B キリストによる勝利

3B 敵の滅び

### 2A 悪魔の目的

1B 破壊

2B 混乱

3B 偽り

4B 誘惑

### 3A 神の武具

1B 諸霊との戦い

2B 主への拠り頼み

3B 神への服従

4B 忍耐する祈り

### 4A 神の働きの前進

1B エズラとネヘミヤ

2B 福音の前進

## 本文

ダニエル書 10 章を開いてください、私たちの聖書通読の学びは 9 章まで来ました。午後に 10 章を一節ずつ学びます。今朝は、12-14 節に注目します。「12 彼は私に言った。「恐れるな。ダニエル。あなたが心を定めて悟ろうとし、あなたの神の前でへりくだろうと決めたその初めの日から、あなたのことばは聞かれているからだ。私が来たのは、あなたのことばのためだ。13 ペルシヤの国の君が二十一日間、私に向かって立っていたが、そこに、第一の君のひとり、ミカエルが私を助けに来てくれたので、私は彼をペルシヤの王たちのところに残しておき、14 終わりの日にあなたの民に起こることを悟らせるために来たのだ。なお、その日についての幻があるのだが。」」

ダニエルがこれまで、夢と幻を見てきたところを読んできました。7 章、8 章、そして 9 章とそれぞれ異なる幻を見ました。そして 10 章 12 章まで、長い大きな幻をダニエルは見ることになります。それは長く、大きな戦いの幻でした。ユダヤ人が今すでに、ペルシヤの王クロス王の布告によってエルサレムに戻っています。けれども、そこで困難が続きます。そして後にペルシヤに取って変わってギリシヤになります。ギリシヤになっても戦いが続き、その中でユダヤ人たちが困難に巻き込まれます。そして終わりの日の幻も彼は見ることにます。それは、世界を荒廃させる、自分自身を

神とする恐ろしい存在、反キリストです。その中でユダヤ人が絶対絶命の危機に瀕しますが、天使ミカエルが彼らを救い出し、そしてユダヤ人で義を行った者は報いを受けるという幻です。

このようなとつもなく長く、そして困難な時代が来ることを告げられるのですが、その預言を神が、祈りを捧げているダニエルに告げようと御使いを遣わした時に、なんとペルシヤの君が、ダニエルの所に行くのを妨げたというのです。ダニエルは、丸三週間、食事制限をして祈りに専念していましたが、その祈り始めの時に既に、天使は神から言葉が与えられていました。主は、ダニエルの祈りに言葉を与えておられた、祈りを聞かれていたのです。ところが、ペルシヤ国の君が彼に向かって立ち向かっており、身動きできない状況が続いていました。しかし、天使長の一人であるミカエルが応戦に来たというのです。それで、ペルシヤの王たちについてはミカエルに任せて、自分はあなたに終わりの日に、ユダの民に起こることを悟らせに来たと述べています。そして、この後にペルシヤの君に再び戦うために出かけて行き、それからギリシヤの君がやって来ると言います。そうです、これらのペルシヤの君とか、ギリシヤの君というのは人間の王のことではありません。天使であります。しかも、神に仕える天使ではなく、神のご計画に逆らう天使、墮落した天使、墮天使であるのです。

つまり、ペルシヤとギリシヤの王たちのしていること、彼らが思い計らって事を行ない、その主権と力を使って戦っているのですが、その主権と力、支配は彼ら自身にあるのではなく、その背後に霊的な存在があるからなのだ、ということです。

### 1A 戦いの書なる聖書

聖書は私たちに、私たちが今、見ている物質の世界が全てであることを教えていません。私たちの目に見える世界は現実に存在し、これらが幻想ということはありません。私は今、ほっぺたをつねれば痛い。現に、肉体と物体は存在します。しかし、聖書ははっきりと目に見えない「霊」の世界があることを教えています。それはオカルトや幽霊のようなものではなく、現に、歴史に存在していた超大国である、ペルシヤとギリシヤ、その王たちの興亡を動かしていた者たちの主権や力、支配があるという、非常に力ある存在であります。それを聖書では、「**支配、権威、権力、主権**(エペソ 1:21)」とあります。目に見えない霊的な存在によって、目に見える世界が動いているのだというのが、聖書が教えている世界です。そして、神ご自身が霊です(ヨハネ 4:24)。そして神は、キリストを甦らせることによってあらゆる天使の権威にまさる権威を与えられました。「エペソ 1:20-21 神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右の座に着かせて、すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世ばかりでなく、次に来る世においてもとなえられる、すべての名の上に高く置かれました。」

### 1B 神の秩序に対する反逆

そして聖書が教えてくれているのは、この世界は戦場であるということです。聖書は実に、人間

の歴史において壮大な戦いが起こっていることを教えてください。今は、世界で起こっている国々の戦争の話をしていません。もちろん、今、世界がテロの時代になり、また私たちの近隣の国々との衝突も起こりかねない危機にあると言えます。戦争が起こったらどうしよう？と不安になっておられるかもしれません。けれども、実はもう戦争は起こっているのです。起こっているのですが、あまりにも長いこと行われており、慣れっこになっているのです。それは、神の造られた国に逆らう勢力が、神に戦っているという戦いです。そして、キリストを自分の主として信じるということは、その戦いに加わっている兵士になっていることを意味します。キリスト者は、その霊の戦いの最前線に配置されていますから、最も生々しい戦いの姿を目撃していると言えます。

天と地を造られた神が支配されている国であれば、そこには正義と平和があります。命の豊かさがあります。主が天地を創造された時に、何かを造られる毎に「良かった」と見なしておられました。ところがそうっていない。創世記では3章において、既に蛇がエバを惑わしている場面が出て来ます。その蛇は、黙示録12章によれば、サタン、悪魔のことです。悪魔ともサタンとも言われている墮天使は、天における三分の一の使いを自分のほうに引き寄せて、神と神のものに戦いを挑んでいることが書かれています(12:4)。

## 2B キリストによる勝利

そこで神は、この敵対分子を潰すご計画を立てられました。それが「女の子孫」であるキリストをこの世に与える計画です。「創世 3:15 わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」女の子孫であるキリストが、蛇の子孫の頭を砕かれます。けれども、その蛇の子孫は彼のかかとかみつきます。ちょうど、蛇がやってきて人々の間で暴れているのを、キリストが来られてその足で踏みつけられたというような様子です。ところが蛇はもがいて、潰されながらもそのかかとかみついたというような場面です。

それが、十字架です。何の罪もない方が、ローマによる最も過酷な極刑に処されるという闇の業がどうしてできたのでしょうか？私たちの世界には、あまりもの不条理で心が折れそうになることがありますね。何の罪もない人が、なんでこんなひどい目に遭わなければいけないのか？と思います。けれども、人類の歴史の中での最も大きな不条理は、イエスの十字架刑でした。正しい方が罪人のようにして死なれたのです。その背後には、闇の力、サタンの勢力がありました。イエス様を捕らえる者たちがやって来た時に、主は、「あなたがたは、わたしが毎日宮でいっしょにいる間は、わたしに手出しもしなかった。しかし、今はあなたがたの時です。暗やみの力です。(ルカ 22:53)」と言われました。イスカリオテのユダが、最後の晩餐でイエス様を裏切る思い計らいを心の中にしている時に、「サタンが彼にはいった。」とあります。そしてイエス様だけが、それを見ておられて、「あなたがしようとしていることを、今すぐしなさい。(ヨハネ 13:27)」と言われています。

このように闇の力が働いて、イエス様は十字架に付けられます。しかし、それは何と、単なる蛇がかかたとを噛んでいるという状態だったのです。つまり、十字架によって悪魔が人々を滅ぼそうとしているのを、決定的に打ちのめす出来事だったのです。主が身代わりに人々の罪を十字架で負われたので、それで他の人々が罪から解放されて、死の恐怖から救い出してくださいました。「ヘブル 2:14-15 そこで、子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放してくださるためでした。」そして、主は三日目に、甦られ、今も生きておられます。主イエス・キリストこそが勝利者となられて、これら悪の勢力をご自分の捕虜として従えておられます。「コロサイ 2:15 神は、キリストにおいて、すべての支配と権威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました。」

### 3B 敵の滅び

そして、悪魔は自分が滅びることが近づいていることを知っています。主が地上に戻って来られ、千年の統治の後に、悪魔は生きたまま火と硫黄の燃える池に投げ込まれることとなります(黙示 20:10)。

ヘビーメタルという音楽のジャンルは、反体制的な歌詞が多く、それで悪魔を称賛するかのような危険な歌詞が多いのですが、クリスチャンのヘビーメタルのバンドがいくつもあります。彼らは、悪魔を称賛するのではなく、その反対で、「悪魔よ、あなたにふさわしい場所に行きなさい。」と地獄に行きなさいということを歌いますね。「祈りの力」という、ある家族の戦いを祈りで克服した映画がありますが、そこでも夫婦が離婚の危機に陥った時に、まず奥さんが主の前でへりくだって、涙を流して祈り、そして、「サタンよ、あなたはこの家にはもう関係ないのよ。」と言って、戸を開けて、押し売りを追い出すかのような仕草をしている場面が出て来ます。悪魔は滅びる定めにあります。しかし、その敗北者であっても、一人でも道づれにすべく猛烈に動いているというのが、現状です。それで、キリストの十字架と復活に神の霊によって結ばれたキリスト者たちも、その猛烈な攻撃を目の当たりにするのです。

## 2A 悪魔の目的

### 1B 破壊

悪魔は何を行なっているのでしょうか？彼の名前は、「破壊者」(黙示 9:11)と呼ばれています。イエス様は、「盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。(ヨハネ 10:10)」と言われました。サタンは、人生を破壊へもたらします。今、話しましたように、自分が火の池、地獄に投げ込まれることを知っているのです。なるべく道連れを作ろうとしています。神とキリストから人々を引き離し、罪の中に死んだままにして、そして神から永遠に引き離されるように仕向けていきます。

## 2B 混乱

そして悪魔が行なうのは、混乱です。私たちの神は平和の神です。ご自身が支配されているところには、平和と秩序があります(1コリント 14:33)。人々の敵意や恨み、憎しみを煽り立てて、争いを引き起こします。

## 3B 偽り

そして悪魔が行なうのは、「偽り」です。イエス様は、「彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。(ヨハネ 8:44)」と言われました。これが悪魔の得意とするところです。コリント第二には、光の御使いにも変装するとも書かれています。本当は罪の中にいるのに、自分は自由だと思わせます。本当は喜びがないのに、自分には喜びや楽しみがあるように騙します。真実な生き方をしていないのに、それを見えなくさせている正体が悪魔です。そして福音を見えなくさせています。使徒パウロが言いました。「2コリント 4:4 そのばあい、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。」

## 4B 誘惑

そして悪魔が行なうのは、「誘惑」です。誘惑とは、行なってはいけない罪、悪をするようにそそのかすこと、誘い込むことです。エバが蛇に惑わされました。けれどもイエス様は、悪魔の誘惑を拒まれました。私たちには、罪との戦い、肉との戦いがあります。救われていたとしても、罪が無くなったわけではありませんから、そしてこの肉体は主が来られて、栄光に体に変えてくださらないかぎり、肉の欲求も無くなりません。御霊によって打ち勝つということが必要です。そこで、自分の肉を刺激して、肉の行ないの中に陥るように誘い込むのも、悪魔の仕業です。争いや妬み、敵意や中傷、また不品行や貪り、そして高ぶりや分裂もあります。これを、主が良いことをキリスト者の間で行われておられる時に、そこに不意に爆弾を落とすようにしていくことがあるのです。

そして、迫害をします。ユダヤ人が迫害されたことも、またキリスト教会が迫害されるのも、その背後には悪魔がいます。神の働きを破壊して、滅ぼしてしまおうというのが悪魔の目的です。

## 3A 神の武具

### 1B 諸霊との戦い

そこで、最も大事なことがあります。私たちが戦っているのは、目に見える戦い、血肉の戦いではないということです。「エペソ 6:10-12 終わりに言います。主にあつて、その大能の力によって強められなさい。悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。」そしてパウロは、神の武具を列挙しています。真理、正義、平和の福音の備え、救い、信仰、そして御霊の剣である御言葉です。そして最強

の武器を私たちに与えておられます。それが、祈りです。「6:18 すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。」

悪魔は、自分が敗北者であることをよく知っています。神のご計画の中で、キリストによる罪の贖いを成し遂げられているので、キリスト者に対して触れることができないことを知っています(1ヨハネ 5:18-19)。ですから、信仰を持っている者は既に勝利者なのです。これから悪魔に勝つのではなく、悪魔に勝利している者なのです。ですから、世に打ち勝った者として、勝利者らしく生きなさいというのが、キリスト者への神の命令です。私たちは、ゆえに神の武器を用いないといけません。そこで悪魔は、どうやって私たちを攻撃するか？それは、私たちがその信仰によって勝利しているところから出て来てもらうことです。

つまり、血肉によって戦わせることです。神の力と知恵に拠り頼ませないで、自分たちの力と知恵に拠り頼ませようとするのです。これが霊の戦いなのだと気付かせないで、肉の領域で戦わせようとするのです。私たちが、神から高性能の戦闘機を持っているのに、自前で持っていた竹やりで戦わせようとするんですね。いろいろ動いて、祈らないために、混乱と偽り、罪の中に入ってしまう。しかし、ひざまずいて祈っていたらどうでしょうか？知らないうちに、問題が過ぎ去っています。ある人がこんなことを言いました。「サタンは、信仰が最も弱々しい信徒がひざまずく時、震えあがる。(Satan trembles when he sees the weakest saint upon their knees.)」

## 2B 主への拠り頼み

そうです、どんなに自分の信仰が弱いと感じても、その信仰の度合いなど関係ありません。ただその弱さといっしょに、ひざまずくのです。その時にサタンは青ざめます。なぜなら、この戦いは信仰者のものではなく、神の戦いなのですから、パウロは、霊の戦いについて語った時に、「主にあって、その大能の力によって強められなさい。(エペソ 6:10)」と言いました。戦うのは自分ではないのです、神なのです。今話したように、自分が戦うといっても、たかが竹やりなのです。自分で戦うのではないのです、指令官がイエスであられ、主がご自分に仕える天使を遣わし、主ご自身が戦われるのです。だから、祈るのです。悪魔に直接対峙してはいけないんですね。悪魔に対峙する時は、主にあって立ち向かいます。もし、私たちが自分の住んでいるマンションで問題を起こしている人がいたら、自分で直接行かないで、管理会社に連絡しますね。管理人をお願いします。ダニエル書に出て来るミカエルも、大天使であるにも関わらず、悪魔と論じ合った時に、あえて相手を罵り、裁くことなく、「主があなたを戒めてくださるように。」と言っています(ユダ 9)。

## 3B 神への服従

そして、霊の戦いに必要なのは、神に服従することです。「ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。(ヤコブ 4:7)」主が戦

ってくださるのですが、ですから私たちが集中すべきことは、主の命令に服従することです。主が飛行機の操縦士であり、また、管制塔です。自分は見習いの副操縦士です。自分は何も分からなくても、主が命じられたことをすれば、主が全てをしてくださいます。問題は、その命令が違ふ、自分には理解できない、また自分にプライドがあるので、ただそれに従いたくないと思ってしまう。主が、例えば「謝りなさい」と命じられたら、相手に謝るのです。主が例えば、「その人のために祝福を祈りなさい。」と命じられたら祈るのです。主が、「裁きはわたしがするから、あなたはわたしに任せなさい。」と言われたら、任せるのです。主が、「ここから離れなさい。」と言われたら、自分は罪を犯すことはないと自信を持っていても、その誘惑の場から離れます。

#### 4B 忍耐する祈り

そして、霊の戦いでは忍耐が必要です、先に引用したエペソ6章の言葉には、「すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。」とありました。祈りが聞かれていないように感じる場合があります。ダニエルは三週間祈っていたけれども、祈りが聞かれたという感触が得られていませんでした。けれども、突如としてその祈りが聞かれていたという幻が与えられたのです。もしダニエルが、三週間、二十一日間ではなく、二十日間だけしか祈らなかつたらどうなるでしょうか？あきらめてしまうことで、多くのものを失ってしまいます。

中国には、少数民族が55あると言われていますが、雲南省にリースー(傣族)族がいます。彼らの九割はキリスト者であると言われていています。それは、ジェームズ・フレイザー(James O. Fraser)という宣教師が20世紀初頭にそこに開拓に行ったからです。けれども、彼が初めにどんなに努力しても人々が救われませんでした。救われたと思ったら、以前の宗教に、オカルト的な宗教に戻ってってしまうのです。自分自身も悪霊によって、妄想や酷い落ち込み、邪悪な思いなどによって悩まされていました。そして彼は祈りのグループを、自分の故郷、英国で作ってくれるように頼みました。たぶん数名のグループですが、彼の宣教の働きのためだけに集まり、祈ります。そして、その遠くで祈られていた祈りによって、あることが起こりました。彼はもうほとんど、信じてくれないので、他の地域の少数民族に福音を語りました。けれども、最後に戻って、最後のチャンスを彼らにあげようと思いました。これで最後だよ、といって福音を語り、そしてその村を去ろうと思っていました。ところが、イエス様を信じたいという一家が出て来たのです。彼らは本当に信じていました、その宗教の祭具を火で焼きました。どんどん人々が救われ、そしてリースー族の九割がキリスト者になるという驚異的な働きが起こったのです。御霊によって、目を覚まして、ジェームズ・フレイザーのために祈ってくれていた人々がいたからです。祈りが聞かれていないと思われるような時も祈り続け、それで実はダニエルと同じように祈りが既に聞かれているのです。

#### 4A 神の働きの前進

##### 1B エズラとネヘミヤ

ダニエルは、なんのために祈っていたかといいますと、帰還した民がエルサレムで困難にあつて

いたからです。神殿の土台を建てたのはよいものの、周囲の住民から激しい阻止運動が起こりました。そして、なんと地方の役人たちが結託して、議員たちも買収して、ペルシヤの王に彼らのことを中傷する手紙を出したのです。アハシュエロス王ですが、彼は建設を中止する命令を出しました。それで神殿の建設を実力行使でやめさせたのです。それでユダヤ人たちは、あきらめて、自分の生活だけを考えるようになりました。自分の家を建てるようになりました。でも、飢饉が来るし、決して良い生活と言えませんでした。ところが、神は預言者を遣わされました。ハガイとゼカリヤです。彼らによって主が彼らを叱責しておられることを知りました。彼らは自分の家ではなく、主の家を建て始めました。そして、再び反対を受けたのですが、主の目が彼らの上に注がれていたのです、やめさせることができなかつたとあります(エズラ5:5)。そしてその役人たちが、その時のペルシヤ王ダリヨスに、報告したのです。すると、ダリヨスはペルシヤ初代王クロスが神殿を建設するように命令を出していた文書を発見しました。それで、ダリヨスはかえって、その建設をやめさせることがないように厳重に注意します。また、国の在庫から建設費を充当するようにも命令しました。

分かりますね、こうしたことの背後にペルシヤの君と、ミカエルやここの御使いとの激しい攻防が、天において繰り広げられていたのです。ペルシヤの王たちに墮落した天使が、阻止させるべく働きかけていたのです。しかし、ダニエルの祈りを通して、主は王の心を動かしておられたのです。

## 2B 福音の前進

主はご自分の働きが、悪の勢力の反対の中で進むことを知っておられます。それゆえ、私たちにも祈るように願っておられます。「コロサイ 4:2-3 **目をさまして、感謝をもって、たゆみなく祈りなさい。同時に、私たちのためにも、神がみことばのために門を開いてくださって、私たちがキリストの奥義を語れるように、祈ってください。**」福音を語る神の働きが進むのも、祈りによってであります。みなさん、ぜひ祈りましょう。